

長野県林業大学校 教育方針

長野県林業大学校は、長野県林業の近代化を推進するため、専門的な知識・技術を身につけ、農山村地域にあって指導的な役割を果たす技術者並びに林業後継者となる有能な人材を養成することを目的として、行学一致の総合的な教育を行う。

- 1 一般教養を高めるとともに、専門的な知識・技術を体系的に習得させ、さらに寮生活を通じて人間形成を図らせるなど指導者となるための全人教育を行う。
- 2 大学、試験研究機関との連携のもとに林業に関する技術並びに知識を習得させ、長野県林業の進むべき方向に沿った教育を行う。
- 3 実験・実習を重んじ、実践的な教育を主眼として、新時代の社会の要請に対応し得る生きた教育を行う。

重点目標（中・長期目標）	総合評価		評価
日本一の林業大学校を目指す。	日本一の林業大学校を目指すためには、他校に比べ抜群に優れた講師・講義レベル・施設・機械装備であることが必要となる。しかしながら、それは多大なる予算措置を伴うものとなり厳しいのが現状である。本校では、講義内容の徹底した検討と、他大学・企業などとの連携協定などにより、資産や施設・機械装備をシェアすることにより、より高いレベルの教育内容を実現した。		A
今年度の重点目標	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す 講義・カリキュラム・学習活動の推進	○「林大グレードアップ推進会議」の検討結果も踏まえ、これまで以上のレベルを意識した講義手法・カリキュラム・学習活動の見直しの検討を随時教務会議で行い、実行に移している。（JLC※への参加等、国内・世界最高レベルの技術取得を目指す校風の醸成、ハスクバーナとの教育連携によるトップガン研修内容の充実など） ※JLC：日本伐木チャンピオンシップ	・JLC：日本伐木チャンピオンシップに参加し、ジュニア部門全国2位3位入賞。学生自らがやる気になる優れた教育環境のなかで、安全動作の取得と技術向上が行われ、全国林業大学校伐木選手権大会優勝など大きな実績を上げた。	A
器具・機械の更新、学習機材・機器・施設の整備	○最大の課題であったチェーンソーについては昨年度最新の安全性に優れた機器を20基予算獲得し購入した。今年度は刈払機20台を3年計画で更新する予算を獲得し5台更新した。 ○伐木・枝払い技術向上のための反復練習機材を学生と共に自ら作成し、効率的な講義を可能にした。 ●チェーンソーについて、来年度以降の更新を行う必要がある。 ●GPSなどの機能を使える最新の機器の数量が不足している	・平成31年度予算要求を強力に行い、チェーンソー、刈り払機、テルホール等伐倒関連機器、GPS等最新測量機器など予算を確保した。	A
大学等教育機関、行政組織、地域団体・企業等との連携強化	○平成29年9月4日：信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書を締結した。今年度は高度な高性能林業機械操作実習に加え、最先端のICT技術研修を加えた。 ○平成29年5月25日：ハスクバーナ・ゼノア(株)との教育協定を締結し、国内最高レベルのチェーンソー技術者から講義を受ける「トップガン講習」が構築された。今年度は、年2回4日間の日程で*WLC（世界伐木選手権）ルールを活用するなど内容を充実させ、JLCのジュニア部門で全国2位3位（林業大学校として唯一）を確保。 ○地域の保育園児等との交流を通じ、中庭・演習林での森林教育を地域交流として進めるほか自主研究の一環として、町や地域交流施設と連携した地域振興イベントを開催した。 ●岐阜県立森林文化アカデミーが高性能林業機械を購入したためこれまでの連携実習ができなくなった。	・平成31年度予算要求を強力に行い、新たに高性能林業機械トップガン講習を構築する予算を確保した。	A
2年生の進路の早期確定と平成31年度入学志願者の確保	○面談を重ね本人の意向を把握した上で、早期に具体的な就職先を選定できるよう、インターンシップへの積極的な参加を促し、平成30年中に全員の進路を決定した。 ○公務員志望者が多いため対策講義を充実させた。 ○募集定員に対し、1.7倍の志願者があり、定員どおりの入学者を確保することができた。	・この状況を維持する努力を継続する。	A

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
学習指導	授業実習内容の充実を図る。	【拡】「最高の学習環境」を目標に置きながら、学生の満足度も把握し、質の高い講義内容に進化する努力をしているか。	○チェーンソー技術・高性能林業機械研修・鳥獣被害対策などこれまでの講義内容に検討を加えより高い内容に進化させた ○アンケートや小テスト等により、学生の理解度を把握し、実物や写真等を活用することで、学生の興味を引く授業を展開することができた。 ●時代遅れの林業機械・測量機器の更新、エアコンの設置されていない教室など学習環境の向上を図る必要がある。	・今年度予算化されないもので必要性が高いものについては引き続き予算要求を行っていく。	B	
		【継】 学生が、自ら考える力を習得できるよう指導できたか。	○自主研究の充実を図るため、今年度当初より学生の希望課題を募り、教務全員で学生個々の課題の指導に取り組んだ。 ○学生の自主性により、これまでにない多様な視点と方向での学習活動が展開されている。 ●学生の希望が多様化しており、林大内部の教務担当者だけでは指導しきれない面があるとともに、研究・調査時間の確保が大きな課題である。	・自主研究の時間確保をした。 ・自主研究の実施にあたって外部有識者の支援を得た。	A	
		【継】 現場に促した知識の取得、技術力の向上を目標とした実習内容を行なったか。	○関係機関との連携協定・覚書を締結することで最高レベルの技術者や環境・機材を使用しての実習を可能にし、学生の技術力向上が促進されている。 ●地元林業士の人数が減少し、今後指導体制が弱体化する可能性がある。	・林業士の不足に対し、地域外からの人材支援を図るため、JLCチャンピオンを講師とするトップガン講習が構築された。	A	
		【新】 学んだ知識及び技術を十分に活用できるよう指導できたか。	○自主研究の充実を図るため、教務全員で学生個々の課題の指導に取り組むとともに、県組織、関係市町村、団体等の協力を得た支援体制のもと、地域振興に繋がるような研究が進められつつある。	・取組を継続する。	A	
	既存カリキュラムの充実・見直しを図る。	【継】 「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進現場で使える知識、技術、時代変化に対応し、林大らしさを踏まえたカリキュラムの見直しが図られたか。	○森林・林業を取り巻く情勢に鑑みながら、「林大グレードアップ委員会」の議論も注視し、必要な改正を30年度授業カリキュラムで実施、引き続き31年に向けて検討を行う。	・取組を継続する。	B	
効率的・計画的な実習等で学習効果を高める。	【拡】 他大学、地域、企業等関係機関と連携し、実習の向上が図られたか。	○平成29年9月4日：信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書を締結した。今年度は高度な高性能林業機械操作実習に加え、最先端のICT技術による森林計画研修を加えることで、学習効果の高い実習が実現できている。 ○平成29年5月25日：ハスクバーナ・ゼノア(株)との教育協定を締結し、国内最高レベルのチェーンソー技術者から講義を受ける「トップガン講習」が構築された。今年度は、年2回4日間の日程で*WLCルールを活用するなど内容を充実させ、反復練習用の機材を作成するなど工夫して効率的な実習が可能となり、JLCのジュニア部門で全国2位3位（林業大学校として唯一）。	・さらなる連携策を講じる。	A		

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
教育活動	進路指導	個々の学生に適した進路選択、希望の職種への円滑な就職を推進する。	【継】 1年生は12月末を目標に将来の進路を確定できるように指導できたか。 【継】 2年生は2月末を目標に就職先を決定できるように指導できたか。 【継】 円滑な就職に向け、インターンシップや個人面談を計画的に実施できたか。	○1年生は計4回の個人面談や就職ガイダンス、インターンシップ等により希望を把握し、進路の方向付けができた。 ○2年生は計6回の個人面談により就職先を確定し、公務員志望者を除き、進路確定は順調に推移している。 ○3～4回インターンシップを実施することで、就職先とのマッチングを深めることができています。	・取組を継続する。	A
		就職・進学の情報提供	【継】 学内掲示板、個人面談を利用して、的確な求人情報が提供できたか。	○林大への求人情報を随時掲示するとともにホームルーム等で全員に周知した。 ○適宜個別に情報提供した。	・取組を継続する。	B
	生活指導	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成	【継】 規則正しい生活や地域活動を通じて、社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 【新】 教務会議の定例化により教授間の情報共有、対策の検討が図られ適切な指導ができたか。 【継】 寮の自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 【継】 学生自治会の情報共有・役割分担の明確化が図られていたか。 【新】 教授間の情報共有と全員で指導する体制ができたか。	○御嶽山登山道整備(7月1日)や水無神社例大祭(みこしまくり)(7月23日)、木曽の手仕事市(8月25～26)などへの参加を通じて、地域社会のルールの意識を高めることができた。 ○教務会議を4月から9月までに15回開催し、職員間の情報共有や対策の検討が図られた。 ○学校と国道との間にある花壇の整備(アダプトサインシステム)活動や、寮祭の準備活動を、学校が側面から支援した結果、学生が社会的な立場を意識しながら、主体的な活動ができた。 ○教務会議を通じて、教授間の情報共有を図り、方向性を明確にしながら、学生自治会との情報共有を図ることができた。	2月1～2日には、地域内「雪灯り散歩路」に参加するなど、年間を通じて意識づくりができた。	B
教育設備の充実と適正な管理	林業機械や施設機器の適正な管理	【継】 実習等に必要の機械・設備は充分確保されているか。 【継】 関係機関との連携により、高性能林業機械等保有していないが必要な機械の効率的な利用ができたか。 【新】 林業機械・施設・機器の故障・修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営は行われているか。 【新】 使用できない機械の廃棄が行われたか。	○チェンソーについては昨年度予算化し最新式20台確保、刈払機も3年計画で更新することが認められた。 ○労働安全規則改正に伴う防護スポンなどの対応方針を決定し、さらに今年度1学年はスポン・ウエアからブーツに至るまで、安全装備1式をトータルコーディネートによる対応を行った。 ●残り20台のチェンソーの更新計画を実現するための予算が必要。 ○機械の補修についてはタイムリーに行い、情報共有もされている。 ○使用後の保守点検は学生により円滑に行われ、新しいチェンソーの保守点検簿が作成されている。 ○使用できない機械の廃棄は行われた。	・平成31年度予算要求を強力に行い、トリオプレーキ付き最新式チェンソーの更新予算のみならず、刈り払機他必要機器まで更新予算を獲得し、学習環境を大きく向上できた。	A	
	学校用地や施設の適切な維持管理	【新】 学生の安全で健全な生活が確保できる施設の維持管理がなされているか。 【新】 寮の運営に際して、舎監・寮母・学生との情報共有が図られているか。 【継】 実習棟・機械庫等は、定期清掃日の設定などにより整理整頓がなされているか。	●学生寮の老朽化が進み、施設の更新が必要となっている。 ○定期的な打合せの場を設けた。 ○学校スタッフと学生により適正に管理された。	寮の適正な管理に向けて、学生との定期的な打合せや舎監・寮母との情報共有を図りつつ、実習棟や機械倉庫の整理整頓に努めるとともに、平成31年度予算要求を強力に行った。	B	
	林大の魅力発信と学生確保の活動	【継】 学生募集のパンフレット及びポスターを作成・配布し、林業大学校への関心を高めることができたか。 【継】 オープンキャンパスの開催及び高等学校への訪問など積極的なPR活動を実施することができたか。 【継】 平成31年度入学者の定員を確保できたか。	○新たに学生募集に向けた学校案内のパンフレット及び学生募集ポスターを作成し、県内のすべての高等学校、県外の入学実績のある高等学校等に配付した。 ○オープンキャンパスを2回開催し、林大の授業の一部を体験するコーナーを設置するなど内容を工夫して、林大受験を考えている学生や林大に興味のある学生に林大の紹介を行った。(参加者：学生54名を含む総数111名) ○県内のほとんどの高等学校を訪問し、進路指導担当に対し、志願者確保に向けたPRを行った。 ○業界誌に林大の活動状況の紹介記事を投稿し、林大のPRに努めた。 ○林大の活動内容に関する報道機関の取材に協力した。 ●引き続き、高校生をはじめとする若者が林業へ関心を持ってもらえるような取組を行っていく必要がある。	・引き続き、高校生等へ林大をアピールする取り組みを行っていく。	B	
学校運営	ホームページの充実を図る。	【継】 魅力的なホームページとなっているか。 【継】 学校の概要及び取組が適切にPRされているか。 【継】 必要な情報提供が行われているか。	○見やすいホームページとするため、学校情報を4つのメニューに分類して掲載している。 ○学校行事により多くの方が参加していただけるよう、お知らせを随時掲載するとともに、主な行事については実施した内容を掲載している。 ○フェイスブックやインスタグラムを利用して学生主導の情報発信を行っている。 ●魅力ある林大をアピールするためホームページを更に充実させる必要があるが、県のホームページの空間量が制限されている。	・引き続き、見やすいホームページをつくる取り組みを行っていく	B	
	その他	【継】 法令を順守しているか。 【継】 予算が適正に執行されているか。	○授業から学校運営に至るまで法令を順守し実施している。 ●男子寮が耐震基準を満たしていない。 ○限りある予算を執行計画に沿って必要性・緊急性を考慮しながら執行している。 ○予算の執行に当たっては、適正な手続きを経て執行している。	・学校施設が耐震基準を満たすよう県当局に要望していく。 ・よりよい林大をめざし、県当局に対し必要な予算要求を行うよう働きかけていく。	B	